

竹原神社奉納煙火

平成29年12月17日
小野沢 誠

- ① 今の糸火と竹製の糸火の筒の違い
今の糸火の筒は塩ビ製である
火薬は昔の龍勢と同じ10:1:3である
棕神社も同じキリを使う
固く詰めると強くなるが着火率が下がる

- ② 仕掛け花火（嵐山）の変化
伝統と改良
新型の仕掛け花火により成功
畔上常一さんの私物から拝殿花火となる
前は手牡丹

- ③ 長野県花火年表を読む
須坂 田中本家の花火と龍勢について
竹原龍勢 明治34年の人身事故
二柱神社煙火大会の入賞額2枚から見る花火の火薬の変化
硝石・硫黄・炭
和火から洋火時代へ
硝酸ストロンチウムの登場

- ④ DVDの上映
 - 1) 竹原の龍勢と同じ尾羽付き（風切羽根）龍勢の打ち上げ
滋賀県米原の流星（杉山氏より）
棕神社の龍勢は竹の先端の小枝で安定させる

 - 2) 棕神社のDVDの上映

 - 3) BSジャパン 『空から日本を見よう』
竹原神社奉納花火 平成29年9月21日録画

信州中野市竹原神社の奉納花火と龍勢

竹原煙火（花火）の紹介

（花火指導員 小野沢 誠）

例祭の9月21日の宵宮で奉納花火が行われています。

祭祀団員と協力団員で8月から準備をする手作り花火7種目の仕掛け花火と10号玉3発が混じる打ち上げ花火である

江戸時代末から個人的には手作りされたと思われるが、徳川家光の頃全国的に奉納花火が広がりを見せる。

明治11年、竹原では上手の山神社の奉納花火が盛んになり、奉納花火の定例願いが出されている。

滝、紅灯笼等仕掛け花火があり、火乱星（打ち上げ）と龍勢（りょうせい）が盛んに行われた。

明治34年の長野高土堤の人身事故まで。

愛知県の三河から長野、須坂そして竹原へ花火の製造打ち上げの技術は伝わってきた。

安茂里にある犀川神社の杜花火の強い影響を受けたと思われる。

仕掛け花火が多く、境内の木々にさまざまな仕掛け花火をしたことから杜花火と呼ばれる。

竹原も木々に花火を仕掛けている。

仕掛け花火は長野から、龍勢は須坂から伝わったと思われる。

月・滝・紅灯笼・あやめ畑・嵐山・糸火。散り桜。

仕掛け花火にはそれぞれの種目の係長が熱演する口上がある。

平成29年度竹原祭祀団スケジュール表

月 日	曜日	作 業 内 容	月 日	曜日	作 業 内 容
7月29日	土		8月27日	日	予備日 足場組AM8:00
7月30日	日	総会 (PM6:30)	8月28日	月	
7月31日	月	各係作業開始 寄付集め開始	8月29日	火	
8月1日	火		8月30日	水	
8月2日	水		8月31日	木	
8月3日	木		9月1日	金	
8月4日	金		9月2日	土	
8月5日	土	炭焼き	9月3日	日	
8月6日	日	炭掘り	9月4日	月	笛 太鼓練習
8月7日	月		9月5日	火	
8月8日	火		9月6日	水	
8月9日	水		9月7日	木	アナウンス練習
8月10日	木		9月8日	金	アナウンス練習
8月11日	金		9月9日	土	針金 (AM8:30)
8月12日	土		9月10日	日	予備日 針金 (AM8:30)
8月13日	日	盆休み	9月11日	月	寄付集め終了 笛太鼓練習
8月14日	月		9月12日	火	
8月15日	火		9月13日	水	
8月16日	水		9月14日	木	
8月17日	木		9月15日	金	各係作業終了
8月18日	金		9月16日	土	
8月19日	土	火薬調合	9月17日	日	
8月20日	日		9月18日	月	
8月21日	月		9月19日	火	
8月22日	火		9月20日	水	最終打ち合わせ PM7:00
8月23日	水		9月21日	木	煙火当日 AM6:00
8月24日	木	口上練習	9月22日	金	
8月25日	金	口上練習	9月23日	土	足場崩し AM8:00
8月26日	土	足場組 (AM8:00)	9月24日	日	予備日 足場崩しAM8:00

北信地方の伝統花火数々

北信地方で最初に花火を打ち上げたのは須坂であるという説が強い。

文政（一八一八）年間、須坂の藩主堀直格が花火会をしたという。将軍家斉の時代、外国船が渡来して異国船打払令が發布（文政八年）された頃。

京都から、楽焼の技術を移入して、その窯開きを催したとき、たまたま三河から、花火師幸右衛門という者が来訪していたので花火を打ち上げさせたという。七寸玉から長さ四間（八メートル余）の夫婦鯉が二匹出たというので大喝采。その人気に土地の豪農田中家（田中本家）が拍車をかけて何回か花火会を開催し、ついには分家の田中半平衛が龍勢作りに熱中したという話

である。

龍勢（流星）については、弘化三（一八四六）年に、妻科の間御所裁松院天神祭りで龍勢をあげ、民家に竹の支柱がささり、けんか沙汰になったという話もある。

氏子が作る神社奉納花火の種類は、噴水花火（大筒、三国）、星の出る玉火、回転する車火、傘から吊り下がる花傘など四三頁に述べた噴き出し筒の応用が主であったわけで、綱に吊る綱

火や、竹につけて飛ばす龍勢など動きのはげしいものを除けば、危険性はやや少ないわけである。

筒から発射する現在の打ち上げが一般化する前の、大空に開かす方法は、この比較的危険のともなう龍勢であったわけで、後述のえびす講花火でも人身事故が発生し、龍勢が禁止されている。これは全国的な傾向で、愛知県をはじめ各地でしだいに龍勢は見られなくなり、現在日本では埼玉の秩父、静岡の草薙、他一カ所と関ヶ原の四カ所しか見ることができなくなっている。しかし明治末期までは、長野県内でもところどころで作られていたのである。

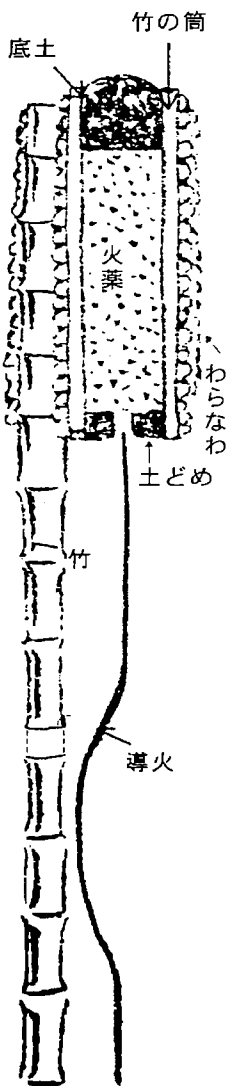


図 龍勢の構造

えびす講花火の発足●鷲沢平六の活躍

第一次 新地が力を入れた

えびす講

長野の花火を論ずるとき忘れてならないのは、長野市のえびす講花火である。恵比寿さまの縁日として古くから親しまれていた西宮神社の十一月二十日に、花火を上げて景気をつけようと街の有志が「長野市大煙火会」を結成したのがはじまり。明治三十二（一八九九）年のこと。第二次世界大戦中に中断したことがあるが、平成十二（二〇〇〇）年に、九十五回を迎えている。打ち上げ場所は鶴賀遊郭に近い田んぼの高土堤であった。最初は七寸（七号）玉止まりの三〜五寸玉が打ち

上げられた。

評判をよんで観客は集まったが寄付金を集めることにひと苦労。そこで一番恩恵をうける鶴賀新地の組合に主催をまかせることになり、明治三十五年から大正三年まで十三年間は山口伊吉が花火発注責任者として運営された。この間特筆する出来事は明治三十四年に隣接の埴科郡あめのみやあがたいまがや雨宮県生萱村（現更埴市）の高野一道路という医者が公称二尺玉（正尺八寸）をはじめ打ち上げたこと（六八頁参照）と龍勢りゅうせいの事故で犠牲者が出て、以後龍勢打ち上げが禁止されたことである。平岡村（現中野市竹原）は古来伝統の竹原の龍勢を得意としていて、当日昼にも十本ほどを

打ち上げて見事に成功。噴き出し筒ロケットを付けた長い竹竿が、畳十帖大のパラシュートに吊られて、フワリフワリと落下するのに大喝采を博した。この「火矢吊り」を夜の部では、放出する「出しもの」を余分に入れることを考えて吊らなかつたのが事故のもととなった。夜にも十本余の龍勢が太い火柱を引いて上昇し、きれいな色火を咲かせて落下する。あと一本というところで龍勢の矢竿が、百間け（二百メートル）四方に設定した立入禁止区域の中に入っていた酔漢の肩に当たって死亡させる事故を起こしてしまった。大騒ぎとなって花火は中止。掉尾とちびを飾るはずの二尺玉は打ち上げることができずに終了してしまったのである。それでも昼の公称二尺玉（二玉）の成功の記録は残り、危険な（？）竹原の龍勢は以後製造禁止となり、姿を消してしまった。

長野県花火年表

西暦	年号	将軍	出来事
1543	天文12	足利義晴	種子島に鉄砲（火薬）伝来。
1582	天正10	足利義昭	大分県臼杵のイエズス会聖堂で花火仕掛け行われる。 織田信長父子伊那谷に侵入、狼煙を伝える。
1589	17	関白秀吉	伊達政宗、米沢城で花火観賞。
1595	文祿4		木曾谷で硝石培養土の製造開始。
1613	慶長18	徳川秀忠	8月、家康駿府城で花火観賞。
1644	正保元	家光	上水内郡豊野町石区に『花火法』あり。
1648	慶安元		6月、江戸市中での花火遊び禁止令（以後5回発令）。
1655	明暦元	家綱	上伊那郡飯島村宇田切の日方磐神社の花火はじまる。 この頃豊橋吉田天王祭花火定着。
1712	正徳2	家宣	飯田今宮郊戸神社で奉納花火を上げる。
1729	享保14	吉宗	幕府、薬の専売制を布く。硝石卸売指定。
1731	享保16		清内路村の花火はじまる。
1732	17		隅田川の川開きはじまる（鍵屋6代目）。
1756	宝歴6	家重	長野古牧平林の若衆組杜煙火を行う。
1777	安永6	家治	長野妻科神社の花火はじまる。
1780	9		更級郡稲荷山の治田神社の奉納花火はじまる（あけた人形）。
1806	文化3	家斉	長野安茂里の久保寺に秘伝書あり。
1818	文政元		須坂の城主楽焼窯開きに花火を上げる（北信で最初の打ち上げ花火という説あり）。
1823	6		9月、飯田藩主花火打ち上げにつき注意。 長野古牧平林で宝樹院住職の葬儀に「地雷仕掛」。 飯縄大権現に花火の配合帳あり。
1824	7		長野市安茂里の久保寺、社名犀川神社となり奉納花火盛大に行う。
1826	9		飯田大宮諏訪神社で手軽な花火打ち上げ。 この頃須坂で豪農田中一族流星花火を打つ。
1834頃	天保年間		松代藩山内杏野で硝石製造開始。
1836	天保7		西長野諏訪神社疫病退散祈願花火を打つ（瓜割煙火の創始）。
1840	11		飯田桜町裏で無届消費の三人、無賃人足を仰せつけられる。
1842	13	家慶	長野小市村花火秘伝書あり。
1844	弘化元		飯田今宮神社祭礼に停止中の流星を出した者に無賃人足を仰せつけ。
1846	3		長野妻科問御所裁松院天神の龍勢花火から喧嘩騒動あり。
1848	嘉永元		8月、飯田の奉行花火につき危険のないよう注意。
1853	6	家定	黒船来航にともない幕府硝石製造を奨励。
1863	文久3	家茂	西長野瓜割煙火に『煙火法帳』あり。
1869	明治2	和火時代	善光寺で地震による死者供養大煙火あり（昼袋物、夜柳火）。
1870	3		長野平林で若衆流星立火など盛大に打ち上げ。
1872	5		1月、太政官布告銃砲取締規則公布。
			長野県監獄開署大煙火に更級郡栄村の尺2出品。

1878	明治11	↑ 洋火時代、袋・釣物主流 ↓	9月、天皇巡幸、長野市城山で大煙火（昼）天覧。長野近郊有志、飯田から出品。
1881	14		飯田今宮郊戸神社遷宮祭に奉納花火。
1884	17		長野裁判所落成式に大煙火。洋火の紅が登場。
1888	21		飯田長姫神社で花火はじまる。
1889	22		12月、火薬類取締規則及爆発物取締規則布告。
1891	24		長野城山で正午のドンを打つ。
1894	27		飯田綿五（原氏）西洋花火の秘伝をうける（久世保吉より）。
1895	28		更級生萱の高野一道2尺玉（正尺8寸）の打ち上げに失敗。
1898	31		北信地区花火師組合発足。藤原善九郎（24歳）組合長となる。
1899	32		4月、長野県令煙火取締規則公布。
1901	34	↑ （型物・輪星全盛） 真菊出現 ↓	長野西宮神社（えびすさま）祭礼煙火実施。
1902	35		8月、銃砲火薬類取締法公布。
1906	39		長野商工業者有志えびす講煙火を鶴賀遊郭高土堤で実施。
1908	41		えびす講花火に高野一道2尺玉（正尺8寸）の打ち上げ。中野竹原の龍勢で事故発生。
1909	42		えびす講の主催鶴賀新地が引き受ける。山口伊吉、花火係担当。
1910	43		5月、高野一道2尺玉（正尺8寸）を愛知県岡崎に送り評判をとる。
1911	44		4月18日、11月5日、藤原善九郎、競進会を企画、春、秋に実施。秋に変色物多数参加。
1913	大正2		10月7日、飯島で上伊那煙火競技会開催。
1914	3		銃砲火薬類取締法改正。花火製造の規制はじまる。
1915	4		3月、名古屋の第10回関西府県連合会共進会に長野より2尺玉出品。愛知県の花火愛好家をおどろかす（藤原善九郎出品）。
1916	5	↑ （小割浮模様・残光出現） 変色・満星時代 ↓	飯田の原五郎兵衛、全国花火大会の審査員をつとむ。
1917	6		4月25日、諏訪湖畔で全国大会開催？
1919	8		長野市正午のドン、旭山（平柴夏目ヶ原）に移る（大正14年まで）。
1921	10		えびす講花火尺玉50玉競演。
			飯田伊豆木の武田流土屋花火工場爆発。
			3月、長野県令、煙火緩燃導火線及煙火取締規則公布
			4月1日、飯田で花火業南信組合創立（原五郎兵衛組合長）。
			7月20日、長野市城山館で長野県煙火組合創立、73名参加（藤原善九郎組合長、原五郎兵衛副組合長）。
			11月3日、第1回組合花火大会を松本で開催。
			11月、えびす講花火、長野商工懇話会が後援する。
		5月、組合会報『煙火之研究』発行。	
		11月、長野商工懇話会がえびす講花火の主催者となる。鷺沢平六が指揮し2尺玉3玉（西長野、西沢長蔵製作）を打ち上げ。	
		7月、銃砲火薬類取締法改正。	
		12月、火薬類作業主任者制公布。花火師の免状制施行。	
		信濃煙火合資会社（藤原善九郎社長）の工場事故、廃業する。	
		9月3日、東宮欧州巡遊帰朝奉祝花火を東京芝浦で打ち上げ。	
		2尺玉5玉新調の鋼鉄製「春雷筒」で打ち上げ。参加業者24名。	
		11月、えびす講花火、奉祝花火と同じものを打ち、盛大なり。	